COLUMN

一般社団法人日本エシカル推進協議会　会長
中原秀樹

若者のSDGsの関心事とコロナ：
ジェンダーと貧困問題、そして生理の貧困

　コロナ感染で学校閉鎖やリモート講義を余儀なくされた昨年、日本総合研究所が全国の中・高・大学生1000人にSDGsに関するアンケート調査を実施。SDGs の17の目標のなかで、最も関心のある目標は、中・高・大学生男女ともに「貧困をなくそう」が最も高く、男子では「すべての人に健康と福祉を」、女子では「ジェンダー平等を実現しよう」への関心が高い結果でした。日本の若者にとって「ジェンダー平等を実現しよう」に男女差がすでに表れていました。

　SDGsの目標でもある「ジェンダー平等」は、時に大変デリケートな問題を孕みます。国によって状況がことなりますが、日本では、「生理の貧困」が大きな問題となっています。背景には、日本総研の調査で若者たちが指摘しているように、新型コロナウイルス感染症による、経済的な困窮が挙げられます。

　生理用品が買えないため学校を休む女子生徒の生理の貧困が問題になっているイギリスのエシカル・コンシューマーから、 エシカルで環境にも配慮した生理用品（Ethical & Eco Sanitary Products）というレポートが届きましたので紹介します。

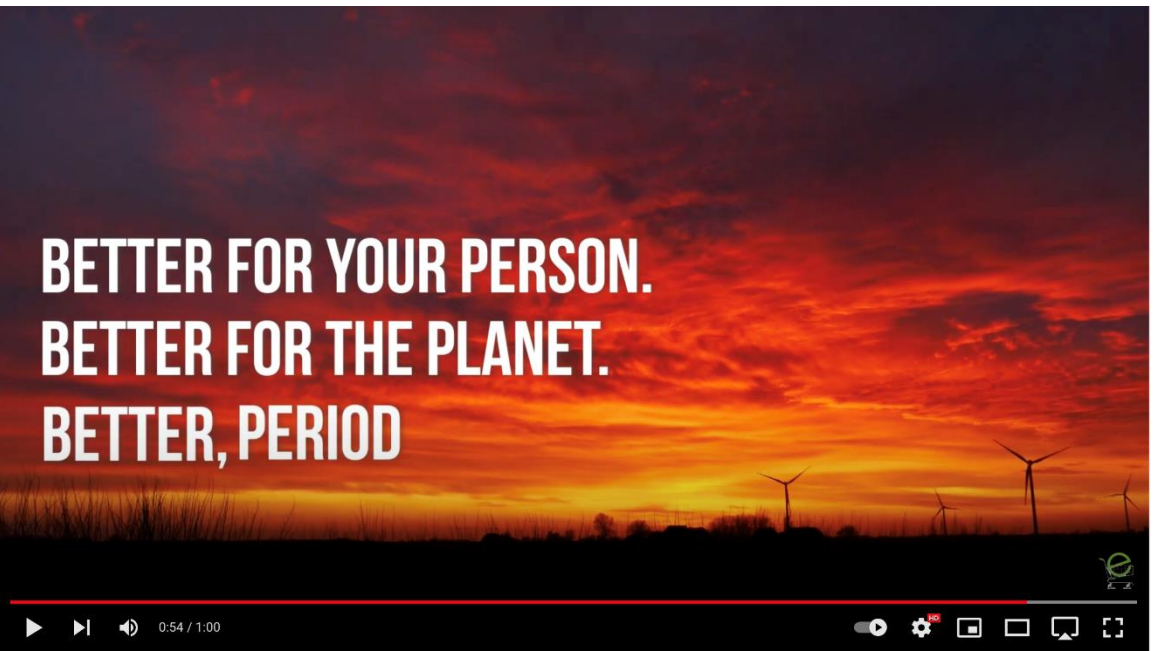
一般社団法人日本エシカル推進協議会　会長
中原秀樹

COLUMN

若者のSDGsの関心事とコロナ：

ジェンダーと貧困問題、そして生理の貧困

女性が一生のうちの生理該当期間の平均数は約450期間。1期間に使用されるタンポンまたはタオルの平均数は約22です。つまり、平均的な女性は生涯で約9,900のタンポンまたはタオルを使用するとのことです。イギリスの公共放送チャンネル4ニュースのレポートによると、平均的な女性が費やす金額の見積もりは、1期間あたり約10ポンド（約1,500円、またはその期間の全期間で4,500ポンド（約68万円）と紹介しています。

レポートでは、「衛生用品の世界で革命が起こっている」としながら、「私たちの体を汚染する可能性がある毒素を含んだプラスチックで満たされたパッドやタンポンから目をそらす女性が増えている。良心的な生理をする人にとっては、今は再利用可能なものがすべて」「再利用可能品は万人向けではないことは理解しています。プラスチックを排除し、有害な化学物質を避けるための、有機および純綿の使い捨ての選択肢がたくさんあります」と呼びかけています。そして「タンポン税、生理の貧困、生理をめぐるタブー」などの広範な問題のいくつかを調査し、これらの問題に取り組むために何ができるかを提案しています。

「どのような選択肢を選ぶにしても、自然の生理用品に切り替えることで、地球だけでなくあなたの体も健康になる」とレポートは結んでいます。日本では「生理の貧困」がクローズアップされていますが、貧困以外にも生理を取り巻く課題は実に多く、時には女性の社会進出への大きな壁ともなり得てしまうのです。「ジェンダー平等」の達成には避けて通れないものと言えるでしょう。（了）